

原子力災害に備えた東海村住民避難計画

原子力災害に備えた東海村住民避難計画とは？

さまざまな原子力施設を抱える東海村として、原子力災害が発生した場合に備え、避難や屋内退避の方法などを定めた計画です。
原子力災害が発生した場合には、初動（最初にどう動くのか）が最も重要です。

原子力災害時における
初動を理解する上での
ポイント

- ✓ 原子力施設の原子力災害対策重点区域（原子力災害のハザードエリア）
- ✓ 施設ごとに異なる「避難」や「屋内退避」の考え方
- ✓ 避難が必要となった場合の避難先

詳しくはこちらから
住民避難計画に関するQ&A
／東海村公式ホームページ



原子力災害対策重点区域

原子力災害対策
重点区域は
裏面の地図でも
確認できます。

PAZ（予防的防護措置を準備する区域）
放射性物質が放出される前の段階から避難
などを実施

UPZ（緊急防護措置を準備する区域）
放射性物質が放出される前の段階に屋内退避、地域の空間
放射線量率の状況によって避難などを実施

施設名	PAZ	UPZ
日本原子力発電(株)・東海第二発電所	半径約5km (村内全域)	半径約30km
原子力科学研究所・JRR-3		半径約5km (村内全域)
核燃料サイクル工学研究所・東海再処理施設		半径約5km (村内全域)
三菱原子燃料(株)・加工施設		半径約1km (舟石川一区、船場区、外宿一区)
原子燃料工業(株)東海事業所・加工施設		半径約500m (押延区、緑ヶ丘区、須和間区、川根区)

東海第二発電所で事故が発生した場合
には避難をします。

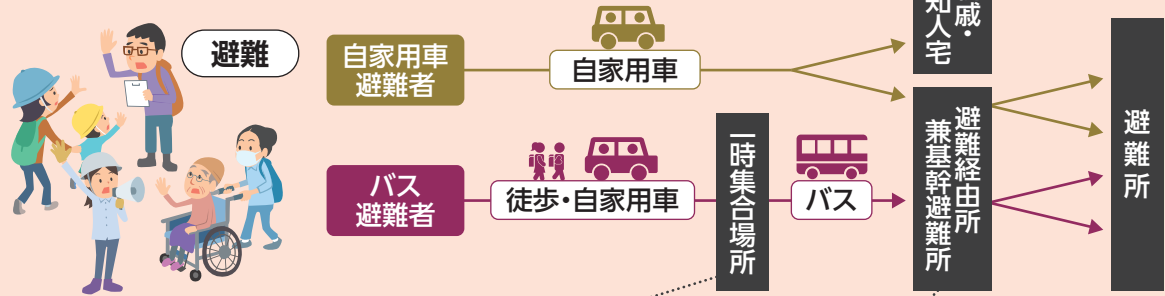


原子力科学研究所 JRR-3 などで事故が発生した場合には
屋内退避をし、必要に応じて避難をします。



「避難」や「屋内退避」

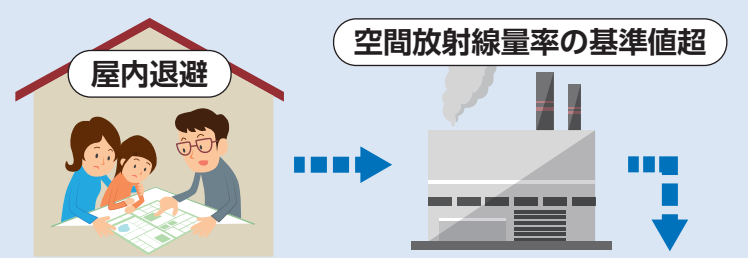
東海第二発電所で発災した場合



一時集合場所（コミュニティセンターなど）
自力で避難できない村民がバス等で避難を実施するために、避難者が集合する施設。

避難経由所兼基幹避難所
開設準備ができた避難所に避難者を案内するための、避難先でランドマークとなる施設。

JRR-3、東海再処理施設などで発災した場合



※ 原子力施設から放射性物質が
放出され、空間放射線量率が
基準値を超えた場合には、避
難を実施します



避難が必要になった場合の避難先

行政区（住所） 次の住所の方が対象	東海第二発電所での発災時		JRR-3・東海再処理施設での発災時	
	一時集合場所	避難経由所兼基幹避難所	一時集合場所	避難経由所兼基幹避難所
真崎区 (村松)	真崎コミセン	常総運動公園 〒守谷市野木崎4700 ☎ 0297-47-8081	真崎コミセン	市民体育館 〒高萩市高萩17-4 ☎ 0293-23-2552
舟石川三区 (舟石川、村松北1丁目、豊白1丁目、舟石川東2丁目、舟石川駅東3丁目)	東海中学校		東海中学校	
原子力機構荒谷台区 (村松)	東海中学校		東海中学校	

〒…住所
☎…電話番号

○ 基幹避難所

◎ 茨城県設置放射線測定局

公共施設及びその他の施設

原子力事業所

  =バス避難に係る一時集合場所

行政区の区割り図は、
おおよその目安となります。



原子力災害時における住民広報

原子力施設で事故が発生した場合、原子力事業者から国、県、市町村、関係機関に対し、「通報連絡」が行われ、村では、原子力事業者からの通報連絡を踏まえ、緊急速報メール（エリアメール）のほか、防災行政無線放送や村公式ホームページ、村公式SNSを用いて災害情報のお知らせや避難の呼びかけなどを行います。

原子力災害時における住民広報／東海村公式ホームページ



原子力災害時における非常用持ち出し品の例

災害時は慌てていることも多く、持っていく物を冷静に準備することが難しくなります。迅速な避難を実施するため、日頃から非常時持ち出し品を備えておきましょう。

原子力災害時における非常用持ち出し品の例／東海村公式ホームページ

